

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100257		
法人名	(株)桜梅桃李		
事業所名	グループホーム和楽の家 上道 (桜ユニット)		
所在地	岡山県岡山市東区才崎260		
自己評価作成日	平成23年3月21日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100257&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日笠クリニック(精神科)毎月第1水曜日往診(認知症の専門医である日笠尚知医師) 野田内科医院(内科)毎週木曜日往診(夜間も往診あり) 近藤クリニック(歯科)毎月第2・4土曜日往診(随時往診あり) 口腔ケア指導により口腔内の清潔保持が保てている。 音楽療法 毎月第3火曜日/絵手紙教室 第2火曜日 訪問美容 2ヶ月に1回 個別外出の充実 季節のイベント各種/ボランティアの来場/小学校・幼稚園生の慰問 地域行事への参加(夏祭り・運動会・文化行事・小学校・幼稚園) 移動販売のパン屋(毎週金曜日)/ヤクルト訪問販売(第1・3水曜日) スタッフの研修制度の充実 排泄ケアへの取り組み 目標達成計画 2項目中 2項目達成(個別記録の充実/生活歴シートの作成)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームとしての特質やこのホームのスタンスが目に見えていて、ここでの暮らしの基盤も固まりつつある「和楽の家 上道」は、もう少して4年目を迎える。昨年度の目標達成計画は、外部評価の提案を中心に職員間でよく話し合い、非常に有意義な取り組みとして掲げられ、1年という短い間によくこれ程改善できたと感じる程の成果をあげている。外部評価とこれ程真摯に向き合い、良いと思う事に対しすぐ取り組んでみようと言う柔軟性と前向きな姿勢には驚くばかりである。ホームが5年・6年と成熟していても、今のような「より良いケア」に飽くことのない積極的な姿勢を継続していけば、近い将来この地域や家族に喜ばれ「我がホーム」と思ってもらえる事業所になるだろう。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念をもとに、初めてホームの理念、個人目標を作成し、取り組みができた1年でした。個人目標については、毎月、個々に反省をし、翌月へのステップアップに繋がられるよう試みました。達成できなかったことについては、新たな目標を立て、ケアの向上を目指し取り組んでいきたい。	生きてきた道や環境が違っても、それを認め助け合う雰囲気をとという基本理念や、それを基に取り組んだホームの目標、職員個別の目標等を確実に評価し合う事で、確実に前に進んでいる。目標の設定の仕方、共有して実践につなげる仕組みもとても良い。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	暑い時期、寒い時期を除き気候のいい日に施設周辺を散歩し、地域の方との交流をさせていただいています。行事や防災訓練等地域の方をお招きしたり、地域のイベント(公民館や小学校、幼稚園)に参加したりと交流させて頂いている。	地盤も何も無い場所にホームを開設して、未だ3年と言うのに地域との繋がりは少しずつ前進している。地域の人達のホームの関心・理解も深く、助けられていることも多いと思うが、今後も今の努力を継続して欲しい。	地域の人達の好意や積極的な働きかけを大切にして、それを更に広めていく工夫と、ホーム側が今以上の積極的なチャレンジを試みて交流の輪を一つひとつ増やしていこう。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座を3/27に開催し、6/27 3周年記念講演会として、心療内科医師日笠クリニック院長を講師に向かえ地域の方々をお招きし、職員、入居者様を含め認知症の勉強をしました。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やお便りなどで気楽に施設へ来ていただけるように努め、お会いできた際に、気づいたことや要望など意見していただき貴重なご意見を職員で共有しよりよい施設を目指していこうと努めている。	老人会や町内会長等の地域の方・家族代表も出世生きして、秋祭りその他の行事も組み入れ、利用者の状況も理解してもらいながら効果的な運営推進会議を実施している。参加者から良い意見も出ている。	参加者からの貴重な意見を有効に活用したり、もっと幅広く参加を呼び掛けたり、会議の内容を情報公開する等、運営推進会議の波及効果を期待している。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、東区の介護保険課などに電話相談し、問題解決できるようにしています。	運営推進会議への岡山市の担当者の出席を期待している。日常的には何かある毎にホームは連絡を取り、その都度市からの指導や一言を受けている。地域包括支援センターの協力も得られている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日々、疑問に感じたケアは、職員同士や上司と話し合い、対策をその都度考えている。採用時研修に取り入れています。H23年度は身体拘束防止委員会を設置し、来年1月、施設内研修として身体拘束の研修を予定しています。	玄関などの施設を含めて、禁止の対象となる具体的な事例はないが、介護理念にもあるように、一つひとつの言葉・表情・行動に思いやりや優しさを持って利用者へ接し、心的拘束につながらないように日々努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、不適切なケアをお互い確認し合い、会議で話し合ったり上司からの個人指導をされたりして適切なケアが行えるように職員自ら注意を払っています。採用時研修に取り入れています。H23年度は虐待防止委員会を設置し、来年1月に施設内研修を予定しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在も取り組みできていない状況です。施設内、外の研修があれば積極的に参加し勉強する必要有り。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行うのは、本社役員、エリアマネージャーで行っています。説明を行い、不明なことなどは質問してもらい、理解と納得をしていただけるようにしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族総会、運営推進会議、行事の開催、面会時など、ご家族の意見要望を頂き、改善できるよう努めています。	色々なチャンスを捉えて職員は利用者・家族から意見や希望を聞き出そうとよく努力している。家族会総会や秋祭りの行事においても多数の家族の参加があり、コミュニケーションはよく取れている。	家族の状況によって差があるが、度々面会に来たり、行事への参加も多いが、ホーム側の姿勢として、「家族はお客様ではなく、共にホームを築く仲間」と考えた方が良いのではないかと思う。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場、ケアの向上など、毎月の会議にて職員同士話し合い決定しています。現場解決できない問題は、本社へ相談し、改善・解決を図っています。	今回のこの自己評価も職員全員で実践状況を検討し合ったり、目標達成計画に対する取り組みや評価もお互いによく話し合っている。代表者と管理者間の調整や相談役としてのエリアマネージャーの役割も大きい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の要望、意見にしっかりと耳を傾けるようし、エリアマネージャー、本社へも相談しながら、改善できるよう努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修を実施しています。施設内では、口腔ケアやトロミ剤の勉強会を実施、施設外では、認知症研修を始め、レクリエーション、リハビリ、感染予防研修など、職員の適性に応じた研修に参加できるよう積極的に働きかけています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加したり同法人内での相互訪問などを行い施設にない点や改善点など感じたことを職員同士共有しケアの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の入居者様の表情や変化に気づき、声かけ等で日々の変化を把握、個々の生活史をスタッフ間で共有し、尊敬の念を持って接するよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の様子を的確にお伝えしご家族のご要望にできるだけ沿えるよう努め信頼関係を築けるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接後、暫定プランを立て、その後、本人様の状態把握により望まれていることや必要な援助を判断し、ご家族の意見を伺いつつ再プラン作成にあたっています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、一人の人、人生の先輩として敬い、最初の「あいさつ」を大切に、我々が教えていただく気持ちで接し、笑顔や笑い声を、共有しながら、共に過ごせるよう努めています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議など、定期的に足を運んでいただける機会を設け働きかけを実施しています。ご面会の際には近況報告を行い、ご家族のご意見を伺いコミュニケーションを大切にしています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力により、自宅への外出・外泊支援の実施ができています。美容院や墓参りへ出かけたり、誕生日には行きたい所へ出かけられるような支援に取り組みました。	「お世話になった御大の墓参りに連れて行ってきてなあ」とAさんは感謝の言葉を繰り返していた。「昔よく行ったお店でうどんが食べたい。死ぬまでに1回連れて行ってーな」といった願いによく応えている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話が弾むようなきっかけ作りをさりげなくお手伝いし、一人きり孤独にならないような環境作り、相性も考え食事の席などにも配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最大限の情報提供と支援。退所後の様子を尋ねたり、必要に応じて家族との支援作りに努めています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今現在の暮らしに不満はないか、何がしたいか、会話の中から推測し、言葉や表情や行動等からも思いをくみ取るように努めています。	日頃から思いや意向に職員はよく耳を傾けているが、特に誕生日には担当職員が中心となって「その人の飛び切りの願い」を叶える仕掛けをしている。家族にも「本人が何を望んでいるか」に関わる情報提供をお願いしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を把握し、今現在の生活との違いを確認、できるだけ元の生活に近い生活を提供できるようにしています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決められた日課、型にはまった生活ではなく、個々のペースを知り、尊重できるよう努めています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにてスタッフ全員で意見交換し、定期的にモニタリングを実施しています。入居者様、御家族の意見もその都度、面会時などに何ようしています。細かな変化への対応は、その都度話し合い、処遇ノートにて各スタッフへ伝達しています。	昨年度の目標達成計画への取り組みで、ケアプランにつながる業務改善を職員一丸となって試行し、素晴らしい実績を上げている。中でも「処遇ノート」を通して情報共有がよく出来ている事、「記録の改善」や「生活歴シート」の作成で、利用者がより見えてきている事が挙げられる。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の会話を個別記録に残し、その中から本人様の意向や変化を探り、その都度話し合い、援助計画の変更をしています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに対して、本人様、ご家族とも、その都度話し合い、協力しながら改善、解決していけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内では毎月1回、民生委員のかたによる絵手紙教室の開催、シルバーリトミック(音楽療法)のボランティアにより交流も兼ねて心身ともに活性化、リフレッシュして頂けるようにしています。地域、小学校、幼稚園の行事へ参加したり、慰問をして頂き、触れ合いの機会を設けています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と密な連携を取り、緊急時対応しやすく、本人様やご家族様には安心していただけるような体制作りを努めています。普段の細かい状態変化をお伝えできるようにしています。	内科は週1、認知症専門には月1、その他の診療科の往診もあり、医療面では万全の体制が整えられている。特別な受診については家族の役割としているが、状況によっては職員が受診対応をしている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており日々の業務の関わりの中で、介護職の気づきや細かな体調変化にも常に報告を行い、医療との連携に繋げています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	病院とは、早期退院、退院後のケアへ繋がれるように食事やリハビリなど情報交換できるように努めています。できるだけ面会させていただき、ご家族とも連絡のやり取りをするようしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向、本人様にとって一番良い選択を早い段階から、相談、話し合いができるようにし、医師と連携を取るようになっている。毎月の会議で、本人様にとって今後どうあるべきかの話し合いをしている。	開設以来ここで時間をかけて看取りをした経験は未だないが、今後あらゆる環境が整えば取り組むつもりである。契約時に方針等について説明をしているが、さらに具体的な支援方法や問題点その他について、運営推進会議や家族会で説明や相談をしていこうとしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、救急手当や心配蘇生法の研修をホーム内で実施、講習会にも参加し、急変時対応マニュアルの作成にて、会議、各自で再確認するようしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、日中と夜間の設定で避難訓練を実施。近所の方にも参加をして頂いています。緊急時通報システムを使用し、速やかに連絡、対応ができるように、訓練をしています。	平屋の造りである事、動ける利用者の多い事等から比較的心配は少ない状況ではあるが、避難訓練を通して問題点を洗い出し対策を話し合っている。近隣の住人にもいざという時に協力してもらえよう話している。	運営推進会議において地域の人達に協力をお願いしている様子は窺われるが、記録の中の反省にもあるように、もっと具体的に考えた協力や、消防団との交流を進めておきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な場面での援助時のプライバシーを尊重したケアを心掛けている。入居者を、人生の先輩であるということを意識して声かけを行っている。ふさわしくない対応時は、随時個人指導や会議にて改善を行っている。全入居者に個室を用意し、プライバシーを保てる空間を提供している。	その人を尊重した日常を展開していくために「どのような人生を送ってきたか」「深く内在している心の中は？」等知る事が必要として「生活履歴シート」を作成している。これを読み返し、追記していきながら、一人ひとりと真剣に相対している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝のコーヒータイムでは入居者様、職員が、ゆっくり会話しながら、思いや希望が聞き取れるようにしています。生活援助の中でも一つ一つ、声かけ意志を確認しながら自己決定していただけるように努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、毎日の生活を自分のペースで行えるように職員側の都合を押し付けないように、声かけしています。買い物、調理、散歩等、望まれることで、職員と共に楽しめるよう個別対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は好みのものを着てもらうようにしている。誕生日、行事の時、お化粧品やネイルのおしゃれをしたり、訪問美容を利用して髪型を気遣える楽しみを持ち続けられるようしています。行きつけの美容院へ行かれたり、ホーム内で毛染めをされるかたもいます。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、後片付け等を個々の能力に合わせて、共に行える支援をしている。食事は同じテーブルを囲み明るい雰囲気での食事を心がけている。スタッフも同じ食事を食べ、味や好みを知り、会話ができるように働きかけています。	開設当初は利用者への寄り添い・見守りを重視して食事に関する事は優先させていなかったが、現在は「みんなで作る」「一所に美味しくいただく」「後片付けをする」等、「食べる事」を通して暮らしの中の重要な部分を担うようになっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考えて旬の食材を取り入れるようにし職員が考えている。嗜好調査を行い入居者様の好き嫌いを把握。食事摂取・水分量の把握を行い、個々の体調管理に努めている。食事が摂れない時は、高カロリー補助食品や本人の好む物を提供し、水分の種類も増やしています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って状態に合わせ介助仕上げ磨きをしている。訪問歯科利用しており口腔ケア方法の指導も職員がうけている。週2回、義歯洗浄を行い清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、必要な方には排泄パターンを記入、トイレで排泄ができるような援助、紙パンツやパットが外せるような取り組みをしています。	排泄は自立に近い人も多く、紙パンツやパットも出来る限り無くするよう努めている。入居当初多くの援助が必要だった人もパオがはずせるようになる等、改善例も見られる。パットも特徴を調べ、個々に合ったものを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため飲むヨーグルトや大麦若葉を提供、食事にも繊維質のもの、バナナなどの果物を取り入れるようにしている。水分の種類も増やし、スポーツドリンク、野菜ジュース、ゆず茶、生姜湯など好みに応じて少しでも多く水分を取っていただけるよう考えています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の意向に添い、異性の職員が駄目な方には同性職員と交代し対応している。入浴嫌いな方に対しては、原因を探り、負担を軽減させ、その方の合った方法で気持ちよく入浴していただけるように努めている。	一方がユニットバスで使い勝手の点で問題があるが、週3回程度は午後の時間帯に隔通し合って入浴している。2人介助が必要な人、持病のある人、入浴拒否の人等があるが、それぞれに個別に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昨晚の睡眠状態の把握をしつつ、体調、年齢、表情動作を観察し、それぞれの生活ペースに合わせて、ホールや居室で休息が取れるように配慮しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日付名前時間を声に出して自他共に確認を行い服薬している。処方の変更があった場合は申し送り記録し、状態変化や異常あれば医療機関との連携も図っている。必要ない薬は減らせるようにその都度、検討しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、野菜の皮むき、お盆拭き、モップ掛けなどの役割を担っていただき、散歩、オルガン演奏、将棋、編み物などの趣味に楽しみながら取り組んでいただけるように支援しています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や、買い物への同行、ドライブ等へ出かけています。ホーム敷地内の畑で野菜作り、初詣や花見、サーカス鑑賞など、四季の景色や雰囲気を楽しめるよう外出支援も行い、誕生日には本人希望の場所への外出の実施。お墓参りや、他事業所ホームへ出かけることもあります。ご家族の協力により自宅への外出支援もあります。	行事や地域交流、グループ事業所との交流その他の外出の他に、近所の散歩は頻繁で近所の人のお付き合いにもなっている。午後になると職員といそいそと買物に出掛ける利用者もいて嬉しそうだった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的に必要な物、希望される物などあれば、職員が付き添い買い物に出るようにしています。要望を伺い、ご家族と相談しながら、お金に関して不安が生じないように支援しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の要望、不安な時や声が聴きたい時には、ご家族と電話で話をして頂けるように支援しています。本人様への電話や手紙なども必ず本人様に確認しお取次ぎし、可能ならばお礼の連絡ができるようにしています。状況により無理な場合でも、職員が電話相手を務める事もあります。お正月には手作りの絵手紙をご家族に出せるようにしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常日頃、生活音や職員の声が大きくなり過ぎないように、テレビや音楽の音が重なり不愉快な雑音にならないように心がけています。ホールや玄関に入居者様の作品や季節感のある作品、行事の写真飾り、季節を感じられ会話が弾むようにしています。加湿器やイオンプラスマクラスターを配置、細かい温度調節をしています。	ホーム内の心地良さはもちろんだが、これから畑作りも活発になりそうな広い敷地の空間が期待を膨らませる。リビングルームの壁などに、それぞれのユニットに色々な工夫が見られ、職員の思いがよく伝わってきた。	ホームの建物の前後の広い空間で、例えば祭りや餅つき大会の園児や近所の子供達、家族、親戚や地域の人達の賑やかな笑い声が聞こえてくるような想像をしてしまった。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣ユニットへ行き、カラオケに参加したり、将棋をされたり、ちょっと気分転換に行かれたり、自由に行き来ができます。相性を考え食事の席にも配慮。少しくつろぎたい時に座れる二人掛けのソファを置き、休めるようにしています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたベッド、タンス等を置き本人が使いやすいように配置している。思い出の写真や絵画を持ち込み、それぞれの好みに合わせ居心地良く過ごせるようにしている。ご家族からの贈り物などもわかりやすく配置。絵手紙などの作品や、面会の際に写した家族写真を飾っています。	見せてもらったどの部屋も明るく楽しいことでの暮らしが垣間見られ、私までほのぼのとした気分になった。職員は面会に来た孫や曾孫の写真を撮り、写真立てに入れて飾る等、色々な心配りをしていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、風呂場内に手すりを設置し、環境整備、自立への配慮を行っている。トイレに目印をつけたり、共用空間の物の配置に配慮し、一人で安全に歩行ができるようにしている。風呂場では滑り止めや踏み台など備えています。		